# 第6章　整備計画

## １　ゾーニング

### （１）ゾーニング全体計画

遺跡公園は、第 5 章で示した基本方針を実現していくために、「保存整備ゾーン」、「ガイダンス施設・体験施設ゾーン」、「エントランスゾーン」、「バッファゾーン」※29 の４つのゾーンから構成するものとします。

丘珠縄文遺跡の範囲を「保存整備ゾーン」とし、「ガイダンス施設・体験施設ゾーン」及び「エントランスゾーン」は、遺跡の南側、遺跡とサッポロさとらんど第４駐車場との間に設定します。また、遺跡の周囲には、サッポロさとらんど内にある施設として、全体の景観との調和をはかるとともに、遺跡を保護する緩衝帯として「バッファゾーン」を設けます（第７図）。

### （２）整備の考え方

「（仮称）丘珠縄文遺跡公園」は、札幌の縄文遺跡の魅力を発信していくために、市民と協働で継続的な調査・研究を行い、遺跡の価値を探求・発信していくことをとおして、市民とともに遺跡の整備と活用・運営を考えていくことを目指しています。

したがって、今回の整備で遺跡公園として完成するわけではなく、今後も市民との協働で整備を継続していく「未完成の遺跡公園」という姿が、「（仮称）丘珠縄文遺跡公園」に求められる整備像と言えます。

そこで、今回の整備では、今後の市民の手による調査・研究・検討の積み重ねが、将来的に「札幌の縄文」や「縄文文化のたたずまい」を感じられる空間の創出につながっていく、「市民が育てる成長する遺跡公園」の実現に向けて、市民参加による継続的な発掘調査を核として、ガイダンス施設等における展示機能の充実などハード面の整備と、体験活動メニューの充実や「学び」のネットワークづくりの推進など、市民との協働による多様なソフト面の展開を中心に、「縄文文化を体感できる場」の創出に努めていくものとします。

※29）文化遺産や自然遺産の保護に係る「バッファゾーン」（buffer zone）とは、保護すべき資産（property）やコアゾーン（core zone）を取り囲んで、保護地域外からの影響を緩和するための緩衝地域・地区を意味します。

訪れた方が、地下に眠る縄文の息吹にふれ、縄文のくらしを学び、体感することができるように、「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」では、「調査・研究」、「展示・公開」、「体験活動」という３つの機能を展開し、札幌の縄文文化の魅力を伝える遺跡公園としての使命を追及していきます。

なお、遺跡の復元整備※30 については、今後の市民との協働による継続的な調査・研究の成果に基づき、長期的な視野に立ち検討を進めていく方針とします。

また、「(仮称) 丘珠縄文遺跡公園」は、サッポロさとらんどと連携した活用・運営をとおして、教育・文化・観光資源として、さとらんど全体の魅力を高めていくことも目指しています。

そこで、今回の整備では、サッポロさとらんど全体の空間利用との調和を図るとともに、サッポロさとらんどの現状の機能や利便性を損なわないように、既存の園路・樹木・設備等を最大限活かした整備を進める方針とします。

さらに、さとらんどの既存施設の有効活用についても検討していく方針とします。

### （３）個別ゾーニング計画

全体ゾーニング計画及び整備の考え方に基づき、各ゾーンの現状、各ゾーンにおける支障物撤去の方針、さらに、各ゾーンにおける整備方針及び整備内容を、第３表として示します。

また、第３表で示した整備方針・整備内容に基づき、ゾーニング施設配置を第８図として示します。

※30）遺跡復元展示施設（炉跡等の遺構と土器・石器等の遺物を発見した状態や地層の状態を現地に復元し展示する施設）を遺跡内に設置したり、丘珠縄文遺跡が形成された縄文晩期の地形や植生を復元したりする（地形復元、植生復元）こと。

市民参加の発掘調査

市民参加の発掘調査

**市民参加による**
**継続的な発掘調査**

「地下をのぞき、遺跡を体感する」機会を広く市民に提供していくことにより、復元整備やレプリカ等の展示では伝えきれない「本物の魅力」を発信。

展示解説

土器づくり

**札幌の縄文の体感**

**展示機能の充実**

- 縄文文化の「学び」の導入
- 継続的な調査・研究による最新成果の発信
- 見学者を惹き付ける展示解説

**体験活動**
**メニューの充実**

- 食文化をはじめとした縄文体験
- サッポロさとらんどとの連携
- 市民と協働でのメニュー開発

展示見学

土器づくり

第3表　各ゾーンの整備方針と整備内容

<table>
<tr><th colspan="2">ゾーン名</th><th>ゾーンの現状</th><th>支障物撤去の方針</th></tr>
<tr><td rowspan="2">保存整備ゾーン</td><td>発掘調査ゾーン</td><td rowspan="2">埋蔵文化財包蔵地<br>・遺跡の北側を東西に、西側・東側を南北に通過するアスファルト舗装の園路が敷設されている。<br>・平成23年度まで「体験農園」・「市民農園」として利用されており、遺跡中央部には農園管理用にアスファルト舗装の通路が敷設されている。<br>・遺跡の北端には、木製遊具等が設置されている。<br>・「さとの池」に注ぐ「さとの小川」が中央部を南北に縦断している。「さとの小川」は、地下水をポンプアップしている「井戸」を水源とする。<br>・旧農園範囲には、部分的に散水栓の管や雨水浸透枡が埋設されている。<br>・北側・西側・東側には樹木が分布する。<br>・遺跡の北側を東西に横断する園路より北側は、丘珠藤木川の調整池に該当する。</td><td rowspan="2">・既存の園路、「さとの小川」、樹木などは、遺跡への影響を考慮しつつ、可能な限り現状を維持する。<br>・旧農園範囲の埋設管・雨水浸透枡等は、継続的な発掘調査の実施に合わせ撤去を検討する。<br>・遺跡中央部の旧農園の管理用通路は撤去する。</td></tr>
<tr><td>遺跡保全ゾーン</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ガイダンス施設<br>・体験施設ゾーン</td><td>ガイダンス施設ゾーン</td><td rowspan="2">埋蔵文化財包蔵地外<br>・「みのりの家」（建築面積200.07㎡）が所在する。<br>・「みのりの家」の南側にアスファルト舗装の園路が巡っている。<br>・「みのりの家」の周囲に樹木が点在する。</td><td rowspan="2">・既存の園路は、可能な限り現状を維持する。<br>・「みのりの家」の機能をガイダンス施設に付設することを検討する。<br>・整備に支障を及ぼす樹木は、移植を含めて撤去を検討する。</td></tr>
<tr><td>屋外体験学習ゾーン</td></tr>
<tr><td colspan="2">エントランスゾーン</td><td>埋蔵文化財包蔵地外<br>・「展示農園」が所在する。</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">バッファゾーン</td><td>埋蔵文化財包蔵地外<br>・北側は「風のはらっぱ」の南端にあたり、芝貼りされ樹木が点在し、木製遊具等が設置されている。丘珠藤木川の調整池に該当する。<br>・西側から南側には、樹木（高木）が点在する。</td><td>・可能な限り現状を維持する。</td></tr>
</table>

| 整備方針 | 整備内容 | |
|---|---|---|
| 「市民が育てる成長する遺跡公園」の実現に向けて、市民参加による継続的な発掘調査を実施できる空間・環境を確保するとともに、縄文体験活動の実施や各種イベントの開催など、市民が遺跡を感じながら活動できる多目的な空間として整備する。<br>なお、整備にあたっては、サッポロさとらんど内にある施設として、既存の園路、小川、樹木など、現状の景観・機能を可能な限り維持する。 | **修景** | 市民参加による継続的な発掘調査を実施する空間として、また、市民が多目的に利用できる空間として、現状の景観を活かしつつ、必要に応じて、地表面を整地するとともに、復旧しやすい芝張り整備を行う。 |
| | **遺跡解説サイン** | 確認調査を実施した遺跡中央部に、調査の実施状況や遺構・遺物の検出状況などを表現するサインを設置する。 |
| | **植栽** | 既存の盛土を活かし、遺跡を恒久的に保存するとともに、バッファゾーンと一体的に、既存の樹木を活かした緩衝帯として位置付ける。 |
| | **園路修景** | さとらんどの全体の導線に配慮し、遺跡北側を東西に横断する既存園路、遺跡西側と東側を南北に縦断する既存園路を活かし、来園者を誘導する案内サイン等を設置する。 |
| 市民ボランティアが継続的な調査・研究を行うことができるとともに、訪れた方が札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡を学び、縄文文化のくらしを体験することができるガイダンス施設を整備する。<br>なお、ガイダンス機能については、サッポロさとらんどの既存施設の有効活用も検討していく。 | **ガイダンス施設** | ガイダンス施設は、展示・情報発信機能、体験学習機能、整理・研究機能、管理・運営機能、収蔵・保管機能、便益機能を有する施設を想定する。<br>なお、一部の機能については、サッポロさとらんどの既存施設の有効活用を念頭に検討していく。 |
| | **管理ヤード** | ガイダンス施設の東側に管理ヤードを設置する。管理ヤードは、管理車両の乗り入れが可能なアスファルト舗装とし、駐車スペースや機材の積み卸しスペースを備えるものとする。 |
| | **体験広場** | 火おこし体験や土器の野焼きなどを行うことができる体験広場を整備する。 |
| エントランス空間を演出する修景を行い、利用者を誘導する案内サイン等を整備する。 | **エントランス広場** | 施設の正面入口として、エントランス空間を演出する修景・植栽を行う。 |
| | **サイン・インフォメーションコーナー** | 総合案内サインを設置するとともに、イベント情報等を発信するインフォメーション機能を持たせた案内板等を設置する。 |
| サッポロさとらんど全体の景観と調和した、遺跡を保護する緩衝帯として、可能な限り現状を維持する。 | **植栽** | 可能な限り既存の樹木を維持・活用する。 |

第7図　ゾーニング計画図

## ゾーニング表示凡例

| ゾーン名 | 線種等 |
|---|---|
| 保存整備ゾーン | |
| 発掘調査ゾーン | |
| 遺跡保全ゾーン | |
| ガイダンス施設・体験施設ゾーン | |
| ガイダンス施設ゾーン | |
| 屋外体験学習ゾーン | |
| エントランスゾーン | |
| バッファゾーン | |

## サイン凡例

| 記号 | 名　称 |
|---|---|
| | 総合案内サイン |
| | 誘導サイン |
| | 遺跡解説サイン |

整備対象面積約30,000㎡（バッファゾーン含む）

# 第8図　ゾーニング施設配置図

## ２　遺跡の保存と整備・活用

### （１）盛土保存

丘珠縄文遺跡の範囲（保存整備ゾーン）は、現状で厚さ 1.5m前後の盛土で覆われており、盛土の下に遺跡が良好に保存されています。そこで、現状の盛土を活かし、今後も遺跡を適切に保存していく方針とします。

なお、発掘調査ゾーンについては、今後の継続的な発掘調査の実施にあわせて、調査に伴う安全確保にも考慮しながら、埋設物の撤去や土壌改良の実施について検討していきます。

### （２）発掘調査ゾーンの整備

整備の考え方に基づき、「市民が育てる成長する遺跡公園」として、市民参加による継続的な調査・研究の進展により、将来的に遺跡の内容がより具体的に把握された段階で、発掘調査ゾーンにおける遺跡の復元整備について、長期的な視野に立ち検討を進めていく方針とします。

この方針に基づき、現時点では、発掘調査ゾーンを、市民参加により継続的な発掘調査を実施する空間として、また、縄文体験活動や各種イベントの開催など、市民が多目的に利用できる空間として位置付け、現状の景観を最大限活かしつつ、利用者の安全を確保し、周囲の景観との調和をはかるために、必要に応じて地表面を整地するとともに、調査後の復旧の簡便性を考慮した芝張り処理を行う方針とします。

なお、遺跡公園を訪れた利用者が、遺跡のある現地で、地下に広がる縄文遺跡を感じることができるように、必要最小限の範囲で、遺跡内に確認調査の成果を示すサインの設置を検討します。

### （３）発掘調査ゾーンの活用

市民参加による継続的な発掘調査を活用の核とし、「地下をのぞき、遺跡を体感する」機会を広く市民に提供していくことにより、復元整備やレプリカ等の展示では伝えきれない「本物の魅力」を発信していきます。

また、発掘調査を実施しない期間については、サッポロさとらんどの「風のはらっぱ」等の広場と同じように、市民が多目的に利用できる空間として、発掘調査ゾーンを広く市民に開放し、丘珠縄文遺跡を身近に感じてもらうことができるように努めていきます。

## ３　調査・研究

### （１）市民参加による継続的な発掘調査

市民ボランティアの参加のもと、継続的な発掘調査を行います。

市民参加による発掘調査は、小規模な面積の調査を毎年継続していく方針とします。

なお、調査の目的や方法は、参加する市民ボランティアと協働で検討していくことを目指していきます。

### （２）市民参加による整理作業・研究活動

発掘調査後の整理作業も、市民ボランティアと協働で行います。また、整理作業に合わせ、文化財調査員や外部講師による講座・学習会等を適時開催し、市民による縄文文化の学習・研究活動をサポートします。

### （３）発掘調査成果の発信

発掘調査の成果を、随時、市民に発信していくとともに、展示や体験学習に活かしていきます。市民ボランティアとの協働による発信を目指し、市民ボランティアによる学習成果の発表をサポートしていきます。

なお、調査の進展に伴い、将来的に遺跡の内容に関する研究が進んだ段階で、遺跡の整備内容について、長期的な視野に立ち検討を進める方針とします。

市民参加による継続的
な調査・研究サイクル

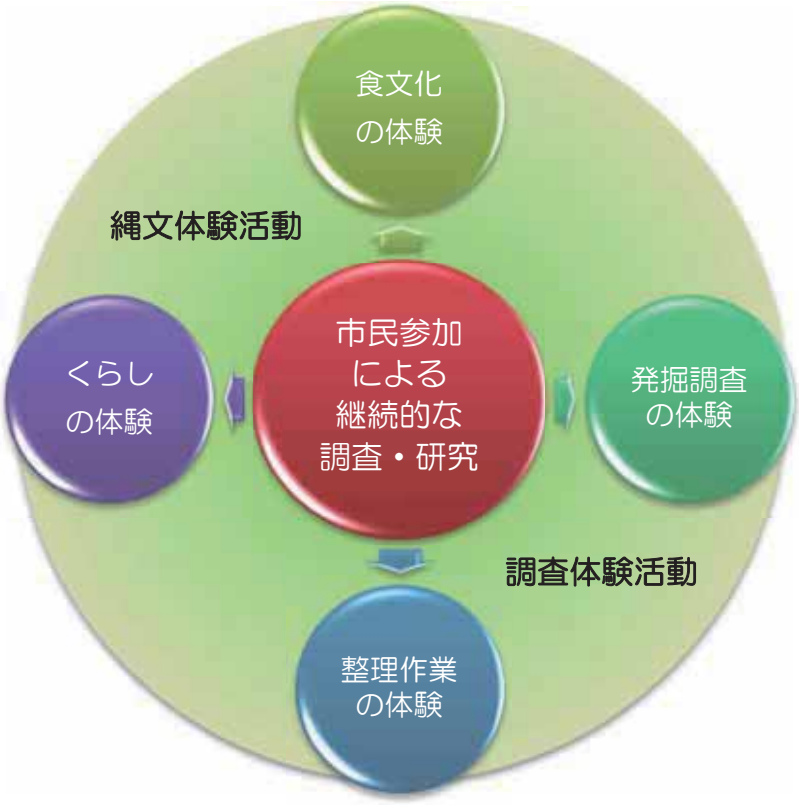
# ４　体験活動

## （１）活動方針

丘珠縄文遺跡の調査成果を活かし、子どもから大人まで楽しみながら参加できる「食文化」をはじめとした縄文体験活動を展開します。

また、発掘調査や出土品の整理作業を通して、幅広い市民が丘珠縄文遺跡の価値を感じることができるように、発掘調査や整理作業を体験できる調査体験活動を展開します。

なお、体験活動は固定化せず、市民参加による継続的な調査・研究の成果に基づき、市民と協働で定期的に見直しを行い、活動の活性化と内容の充実に努めていきます。




## （２）縄文体験活動

### １）食文化の体験

丘珠縄文遺跡の調査成果を活かし、縄文の食文化にふれることができる体験活動を展開します。

活動にあたっては、サッポロさとらんどと連携し、参加者が縄文の食文化と

●素材・・・サケ、ウグイ、チョウザメ、クルミ、ヒエなど
●活動例・・・栽培体験、収穫体験、調理体験など

現在の食文化を比較することができるように、体験内容を工夫していきます。

**２）くらしの体験**

縄文のくらしを感じることができる体験活動を展開します。

なお、宿泊を伴う体験活動については、参加者の安全面や施設の管理面等の諸条件の整理を進めるとともに、市内の他団体との連携の可能性についても検討していきます。

●素材・・・炉跡、土器、石器、土製品、装飾品など
●活動例・・・火おこし、土器づくり、石器づくりなど

### （３）調査体験活動

**１）発掘調査の体験**

市民ボランティアの参加による発掘調査の実施に伴い、子どもや大人が発掘調査の様子を見学できるようにするとともに、発掘調査に実際に参加できる体験活動を展開します。なお、発掘調査に実際に参加する体験活動は、少人数の参加を基本とします。

●素材・・・発掘調査
●活動例・・・発掘調査の見学、発掘調査体験（少人数・短時間の体験）

**２）整理作業の体験**

子どもや大人が、出土した遺物の整理作業に参加できる体験活動を展開します。

●素材・・・整理作業
●活動例・・・整理作業の見学、遺物洗い体験、接合体験※31、拓本体験※32 など

※31）遺跡から出土した土器や石器などの破片を接合し、元の状態に復元する作業の体験。

※32）墨を使って土器や土製品などの文様を紙に写し取る作業の体験。

### （４）展開方法

体験活動は、年齢や人数、知識や経験の程度など、利用者の多様なニーズに対応できるように、階層的なメニューづくりを進めていきます。また、小中学校の校外学習に対応できるメニュー設定も工夫していきます。

活動にあたっては、体験の効果を最大限高めるために、体験の導入として、ガイダンス施設を活用した遺跡や縄文文化に関する事前学習を取り入れます。また、縄文文化のくらしを現代の我々のくらしと比較して理解できるように、サッポロさとらんどと連携し、縄文文化の体験と現代の「食」や「農」の体験とを組み合わせた複合的な体験メニューの構築を検討していきます。

#### コラム１　子どもたちと体験活動

現代社会でくらす子どもたちにとって、縄文文化は未知の世界です。様々な体験を通じて、子どもたちと縄文との出会いを演出していきます。

火おこし体験

土器の復元体験

石器づくり体験

発掘調査の体験

# ５　ガイダンス施設・体験施設

## （１）ガイダンス施設の位置付け

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」は、「市民が育てる成長する遺跡公園」として、市民ボランティアと協働で、「調査・研究」、「展示・公開」、「体験活動」という３つの機能を展開し、札幌の縄文文化の魅力を伝えていくことを目指しています。

調査・研究により得られた最新の成果を常に展示と体験活動に活かし、地下に眠る遺跡を直接感じることができる場所で、遺跡のガイダンスと体験活動を一つのセットとして展開していくことが、丘珠縄文遺跡に対する深い理解と縄文文化の効果的な学びに繋がっていきます。

したがって、市民ボランティアが発掘調査と整理作業・研究活動を継続し、また、遺跡公園を訪れた方が、丘珠縄文遺跡の発掘調査の成果を見学し、縄文のくらしを学び・体験できる施設を、遺跡を臨む空間に整備する必要があります。

## （２）ガイダンス施設の機能

ガイダンス施設は、下記の６つの機能を有する施設を想定します。

なお、一部の機能については、サッポロさとらんどの既存施設の有効活用を念頭に検討していきます。

| | |
|---|---|
| １）展示・情報発信機能 | ２）体験学習機能 |
| ３）整理・研究機能 | ４）管理・運営機能 |
| ５）収蔵・保管機能 | ６）便益機能 |

### １）展示・情報発信機能

学びの導入として、札幌の縄文文化の魅力を感じることができるように、丘珠縄文遺跡と札幌の縄文文化の概要をガイダンスします。

丘珠縄文遺跡の継続的な調査・研究に基づく積極的な情報発信と市内縄文遺跡のこれまでの調査成果の紹介のために、十分なスペースを確保するとともに、可変展示の手法も採用することを検討します。また、企画展のスペースや体験学習に関わる市民の作品を展示できるスペースも考慮します。

展示解説については、校外学習等での利用が想定される小学校高学年の児童生徒が理解できる内容とします。

### ２）体験学習機能

縄文土器づくり等の縄文体験活動を行うことができる機能を設けます。体験活動の機能は、小中学生の校外学習等による団体利用を想定し、十分なスペースの確保を検討します。

また、利用者の規模等に応じ空間を簡便に仕切ることができる機能や、小規模な講演会や学習会の開催に対応できる機能の導入も検討するとともに、雨天時に団体利用者が休憩や昼食など多目的に利用することも想定します。手洗いや土器等の乾燥機能の付設も検討します。

なお、食材調理を伴う縄文の食文化体験については、サッポロさとらんどとの連携による体験メニューとして検討していきます。

また、屋外体験学習ゾーンに面した空間に、火おこし体験等を実施できる機能を設け、継続的な発掘調査により遺跡から出土した遺物の一次的な洗浄や土壌サンプルのフローテーション法※33 による選別等を実施できる設備の付設を検討します。

※33）18 ページの注釈※25 を参照願います。

### ３）整理・研究機能

市民ボランティアと協働で、基礎的な整理作業を実施できる整理機能、撮影機能、水洗機能を設けることを検討します。

### ４）管理・運営機能

施設の管理・運営を行うための事務室窓口機能や、市民ボランティアの活動拠点としての機能を設けることを検討します。市民ボランティアの活動拠点には、更衣機能の付設を検討します。

### ５）収蔵・保管機能

継続的な発掘調査の実施に伴い出土した文化財等を収蔵する収蔵機能と発掘調査や体験活動で使用する道具等を収納する保管機能を設けます。

### ６）便益機能

利用者の利便性に供するため、トイレ等を設置します。

### （３）ガイダンス施設の規模

ガイダンス施設については、サッポロさとらんどの既存施設の有効活用や多目的な空間利用など、費用対効果を考慮し、必要な規模を検討していきます。

なお、「市民が育てる成長する遺跡公園」として、市民参加の発掘調査の成果を継続的に発信していく必要があるとともに、体験型の施設として、縄文文化を体験できる様々な体験メニューを提供していく必要があることから、展示・情報発信機能及び体験学習機能に配慮した空間利用を検討します。

### （４）ガイダンス施設の構造

ガイダンス施設は、文化財の展示・収蔵・保管施設として、耐火性・耐震性を有する構造と適切な防火設備・防犯設備の設置が求められます※34。

また、ガイダンス施設の整備にあたっては、サッポロさとらんどの景観と調和したデザインを検討するとともに、多様な利用者に対応できるように、ユニバーサルデザインにも配慮します。

※34)『文化財公開施設の計画に関する指針』平成７年８月　文化庁。

### （５）屋外体験学習ゾーン

ガイダンス施設に近接した屋外に、火おこし体験や土器の野焼き体験などができる屋外体験学習ゾーン（体験広場）を整備します。屋外で行う体験活動は、必要に応じて、発掘調査ゾーンの多目的広場も活用していく方針とします。

なお、ガイダンス施設の屋外に、屋外体験学習ゾーンの利用者が使用できる手洗いの付設を検討します。

## ６　便益施設

### （１）トイレ・手洗い

トイレはガイダンス施設内に、手洗いはガイダンス施設の内外に設置します。その他のゾーンについては、サッポロさとらんどの既設のトイレ・手洗いを利用できることから、新たにトイレ・手洗いは設置しないものとします。

### （２）園路

サッポロさとらんどの主要施設からの導線については、可能なかぎり既設の園路を活用することとし、さとらんどセンターやさとらんど交流館等から利用者を遺跡公園に誘導する誘導板の設置など、利用者の移動の利便性を検討していきます。

### （３）駐車場

東側に近接するサッポロさとらんどの既設の第４駐車場を、最寄りの駐車場として利用します。

なお、ガイダンス施設には、管理用車両の駐車や機材の搬入等に利用できるアスファルト舗装の管理ヤードを付設します。

### （４）休養施設

遺跡の景観を保護するため、保存整備ゾーンに、あずま屋・ベンチ等は基本的に設置しない方針とします。

# 7　植栽等

## （1）方針

縄文の植生を活かした植栽による縄文の景観を感じることができる空間づくりを検討していくとともに、サッポロさとらんどの既存の周辺環境と調和した空間づくりを目指していきます。

なお、縄文の植生復元は、花粉分析※35 や珪藻分析※36 等の積み重ねによる古植生の復元に基づき進めていく必要があるため、当面は、既存樹木を活用しながら、整備後の古植生に関する継続的な調査・研究の成果に基づき、植栽計画を検討しながら、市民参加により縄文の植生復元を進めていく方針とします。

## （2）既存樹木の取り扱い

整備対象範囲には、バッファゾーンも含めて、約 450 本の樹木が植えられています。これらの既存樹木については、可能な限り活用する方針とし、整備に支障がある場合は、ゾーン毎にその取り扱いを判断します。

### 1）保存整備ゾーン

保存整備ゾーンについては、現状で 1.5m前後の盛土が施されており、樹木の垂下根による遺跡への影響は軽微なものと考えられることから、可能な限り、既存の樹木を活用していくこととします。

### 2）ガイダンス施設・体験施設ゾーン

ガイダンス施設の建設及び屋外の体験広場の整備に支障を来す樹木については、移植を含めて撤去を検討します。

### 3）エントランスゾーン

エントランスゾーンには、該当する樹木はありません。

### 4）バッファゾーン

バッファゾーンについては、既存の樹木を活用していくこととします。

※35）遺跡の地層から植物の花粉化石を取り出し、顕微鏡で植物の種類を調べ、古植生や古環境を推定する方法。

※36）遺跡の地層から藻類の仲間である珪藻の化石を取り出し、顕微鏡で珪藻の種類を調べ、古環境を推定する方法。

## （３）各ゾーンにおける植栽計画

### １）保存整備ゾーン

発掘調査ゾーンについては、サッポロさとらんど全体の景観に溶け込む空間づくりの観点や、整備後の継続的な調査に伴う復旧の簡便性の観点から、芝張り整備を行います。

また、遺跡保全ゾーンについては、将来的に遺跡を保全していく必要があることから、遺跡への影響を考慮した上で、既存樹木と現状の芝張りないし草地を活用しながら、植生復元について検討していきます。

### ２）ガイダンス施設・体験施設ゾーン

ガイダンス施設ゾーンについては、管理ヤードを除く建物周囲について芝張り整備を行います。屋外体験学習ゾーンについては、火を使用した体験を行う観点から、植栽は行わず、地表面はクレイ舗装などを検討します。

### ３）エントランスゾーン

エントランスゾーンは、周囲の景観に溶け込む空間づくりの観点から、既存の園路を除き、地表面をインターロッキング舗装で処理し、エントランス空間を演出するために、必要に応じて修景を目的とした花木等の部分的な植栽を検討します。

### ４）バッファゾーン

バッファゾーンは、既存樹木を活用していきます。

# 8　公開・活用計画

## （1）展示計画

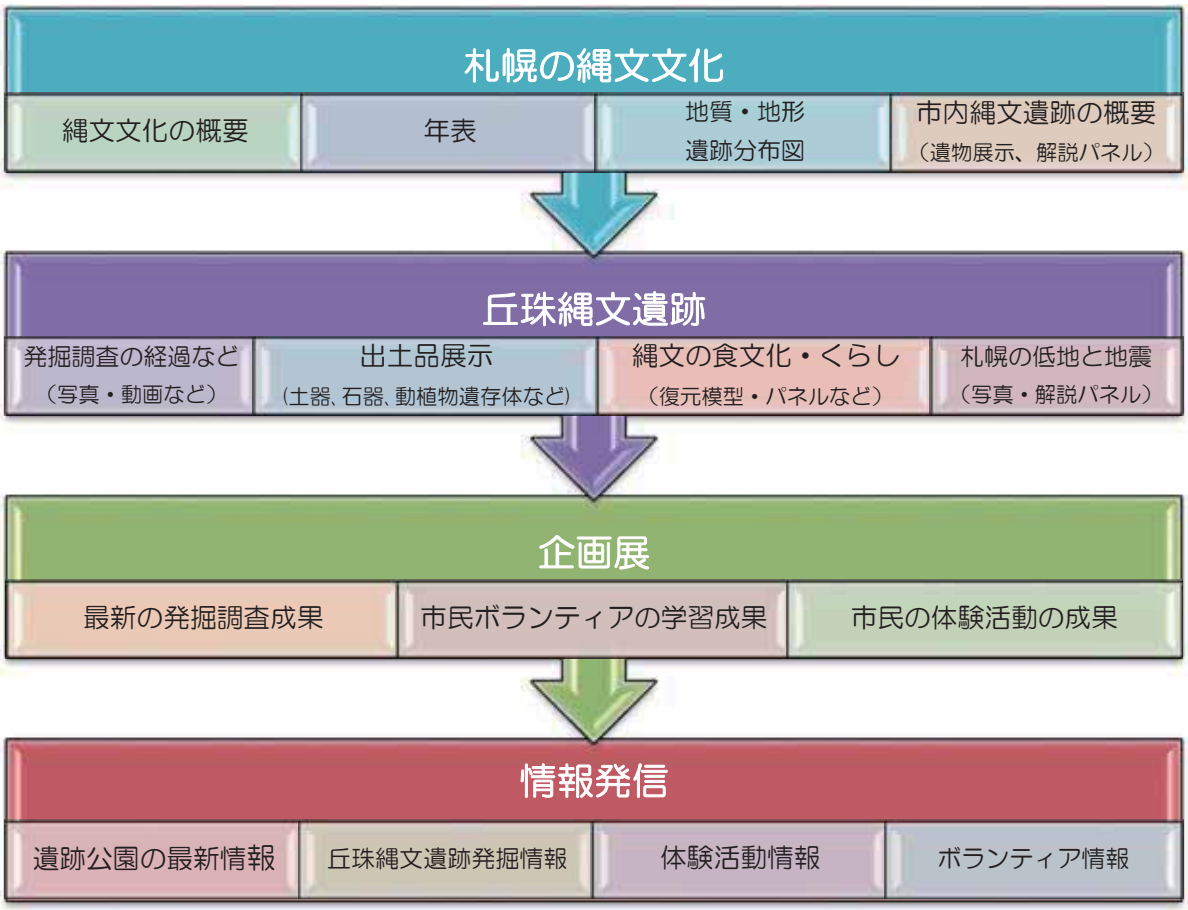
### 1）展示方針

展示機能は、遺跡公園を訪れた利用者が、継続的な発掘調査や体験活動への参加に向けて、丘珠縄文遺跡と札幌の縄文文化について事前学習を行う、公開・活用の導入施設として重要な役割を担います。

このことを踏まえ、展示では、丘珠縄文遺跡の特徴や価値を発信するとともに、これまで蓄積してきた発掘調査の成果を活用して、市内の他の縄文遺跡についてガイダンス展示を行い、札幌の縄文文化の魅力を発信していきます。発信にあたっては、遺跡公園のテーマである『川辺に広がる札幌の縄文、その「食文化」をはじめとする縄文の体感』を柱とし、札幌の縄文文化の魅力を効果的に伝えることができる展示シナリオについて、市民ボランティアと協働で検討します。

なお、丘珠縄文遺跡で確認された地震による液状化現象の痕跡などをもとに、「防災教育」の視点を展示に盛り込むことも検討していきます。

### 2）展示計画（参考）



### ３）展示手法

継続的な調査・研究に基づく積極的な情報発信に向けて、展示替えを容易に行うことができる自由度の高い可変展示の手法を検討します。また、利用者の理解を深めるために、ハンズオン展示※37の手法や、グラフィック機器などの効果的な導入について検討していくとともに、定期的な展示替えについては、展示シナリオに基づき、市民ボランティアと協働で実施していきます。

なお、海外からの観光客の利用も視野に入れ、外国語表記の導入を検討していきます。

※37）ハンズオン（hands-on）展示とは、利用者が直に展示物や展示装置に触れたり利用したりすることができる、楽しみながら学ぶことができる展示です。

## （２）公開方法

### １）開園日・開園時間

サッポロさとらんど内にある施設として、原則としてサッポロさとらんどの開園日・開園時間に準じます。

**【参　考】サッポロさとらんど開園日と開園時間**

●開園日　4 月 29 日～11 月 3 日　無休
　　11 月 4 日～4 月 28 日　月曜日※1、年末年始※2 休園
　　※1）祝日の場合は開園し、その翌日休園。　※2）12 月 29 日～1 月 3 日

●開園時間　4 月 29 日～9 月 30 日　9:00～18:00
　　10 月 1 日～4 月 28 日　9:00～17:00

### ２）利用料金の設定

サッポロさとらんどは入園及び各施設の入館がいずれも無料であることから、ガイダンス施設は、無料とします。ただし、体験活動については、利用者の人数に比例して人件費・消耗品等の費用がかかり、施設の適切な運営の支障とな

**【参　考】サッポロさとらんどの体験メニュー、講座等の料金設定**

・手づくり体験（個人）　バター30 分 350 円、ソーセージ 60 分 900 円、アイスクリーム 30 分 450 円、味噌づくり 60 分 2,200 円、とうふ 90 分 700 円、生キャラメル 60 分 500 円など
・収穫体験　アスパラ 1g1 円、ミニトマト 1 カップ 250 円、きゅうり・えだまめ各 2 本 100 円、とうきび 1 本 120 円、タマネギ 1 袋 150 円、ジャガイモ　バケツ小 200 円など
・栽培収穫体験　サツモイモ 15 株コース 4 日間 3,100 円、ジャガイモ 40 株コース 3 日間 2,100 円、タマネギ 50 本コース　3 日間 1,100 円など
・栽培収穫加工体験　野菜コース 10 日間 3,600 円、ソバコース 5 日間 3,100 円など
・さっぽろ農学校入門コース　40 講義 8,000 円　当日 2 講義のみ 500 円

ることから、サッポロさとらんどの体験メニューや講座料金に準じ、各体験活動に係る教材分等の費用を有料とします。

### （３）活用計画

ガイダンス施設を学びの導入とし、札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡を発信していくとともに、市民参加による継続的な発掘調査をとおして、「地下をのぞき、遺跡を体感する」機会を提供し、「本物の魅力」を広く市民に伝えていくことを目指します。

また、札幌の縄文文化を体感できる遺跡公園として、学校教育と連携した小中学校の校外学習としての活用も目指し、実物にふれ、体験を行うことによって、縄文文化の知恵や技術に気づき、現代のくらしと縄文文化を比較することができるようなプログラムを検討していきます。

さらに、観光資源としての活用も目指し、例えば体験型の観光ツアーなど、観光客の集客に向けた取組を、サッポロさとらんどと連携し、検討していきます。

以上のような活用をとおして、利用者のリピート率を上げ、サッポロさとらんど内にある施設として、全体の魅力を高めていくことにより、年間およそ 60,000 人の方々が遺跡公園を訪れることを想定しています。

なお、活用においては、利用者の中から市民ボランティアとして、丘珠縄文遺跡の継続的な調査・研究や体験活動に主体的に取り組んでいく人材が育成できるような取組についても検討していきます。

遺跡公園の活用イメージ

活　用　計　画（参考）

| 項　目 | 内　容 | 対　象※ | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ボランティア | 市民 | 小中学生団体 | 観光客 |
| ガイダンス | 札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡の発信 | ◎ | ● | ● | ● |
| | 施設情報・イベント情報等の発信 | | ● | ● | ● |
| 発掘調査 | 市民参加による継続的な発掘調査 | ◎ | ● | | |
| | 遺跡見学会などイベントの開催 | | ● | ● | ● |
| 整理作業 | 遺物の基礎整理 | ◎ | ● | | |
| | 調査情報の基礎整理 | ◎ | ● | | |
| 研究活動 | ボランティア研修会、学習会の開催 | ● | | | |
| | 講座、講演会の開催 | | ● | ● | ● |
| 縄文体験活動 | 食文化の体験 | ◎ | ● | ● | ● |
| | くらしの体験 | ◎ | ● | ● | ● |
| 調査体験活動 | 発掘調査の体験 | ◎ | ● | ● | ● |
| | 整理作業の体験、バックヤードツアー | ◎ | ● | ● | ● |
| 活動成果の発信 | 学習・研究成果の発表 | ◎ | ● | ● | ● |
| | 展示の更新、企画展の開催 | | ● | ● | ● |

※「対象」欄の「◎」は、ガイドや発表者としての参加を意味する。

## コラム２　本物の魅力

発掘調査は地下に眠る縄文遺跡との出会いであり、縄文のくらしに想いをはせることができる貴重な機会です。

また、出土した遺物を見れば、縄文の知恵や技術に想いが至ります。

遺跡公園では、発掘調査、出土品の展示、体験活動などをとおして、「本物」にふれる機会を提供していきます。

縄文土器が出土した状況

市民ボランティアによる調査の様子

丘珠縄文遺跡見学会の様子

縄文土器にふれる

## （４）情報計画

### １）サイン計画

サッポロさとらんどに至るまでの既設の誘導情報（案内板、標識）に、遺跡公園の案内を追加することを検討します。

また、サッポロさとらんど内の既設の誘導情報（案内板、標識）に、遺跡公園の案内を追加するとともに、必要に応じて、既設園路による導線の交差部分に新たな誘導板の設置を検討します。

最寄りの駐車場として利用予定の第４駐車場西側には、エントランスゾーンへと通じる遺跡公園の入口表示を行うとともに、エントランスゾーンには、計画内容･利用方法･利用マナーを表示する遺跡公園の総合案内板を設置します。

さらに、遺跡公園の各ゾーン・施設に名称表示を設置するとともに、発掘調査ゾーンに、遺跡の概要を説明する解説・学習サインを、必要最小限の範囲で設置します。

なお、解説・学習サインには、モバイル型のＶＲ※38やＡＲ※39など、最新のＩＴ技術を活用した手法の導入を検討していきます。

### ２）広報計画

リーフレットの作成、ホームページの開設・更新等により、施設の情報を随時発信していきます。また、各種イベントの開催時には、ホームページ、広報紙等を活用するとともに、チラシ・ポスター等を作成し、関連施設での配布を働きかけることにより、活動内容を市内外に広く周知し、集客を促していきます。

※38）ＶＲ（Virtual Reality：仮想現実）とは、コンピュータグラフィックスや音響効果などを組み合わせて、人工的に現実感を作り出す技術です。

※39）ＡＲ（Augmented Reality：拡張現実）とは、現実世界から得られた画像・映像・音声などに加工を施して、肉眼では見えない部分を見えるようにしたり、関連情報を提供したりする技術です。

## （５）「学び」のネットワーク計画

### １）サッポロさとらんど

さとらんどセンター、さとらんど交流館、体験農園などと連携し、利用者の多様なニーズに対応する主に「食文化」をテーマとした体験活動のメニューを検討していきます。

### ２）モエレ沼公園

サッポロさとらんどの北東側に位置するモエレ沼公園は、年間 70 万人を超える利用があり、年間 60 万人を超える利用者を集めるサッポロさとらんどを含め、この地域は「産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、札幌の魅力と活力の向上を先導する高次な都市機能が集積する拠点」（「高次機能交流拠点」）の一つとして位置づけられ、今後、「文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動など、市民や来訪者の創造性を刺激する多様な活動の拠点として、水辺や農地、埋蔵文化財などを生かした良好な空間の更なる活用を図」る方向性が示されています※40。

この方向性に基づき、サッポロさとらんどと連携した学習メニューの提供や、モエレ沼公園と連携した情報提供を検討し、モエレ沼公園・サッポロさとらんど周辺の更なる魅力アップを目指していきます。

### ３）埋蔵文化財センター

遺跡を通した札幌の歴史学習の導入として、埋蔵文化財センター展示室と活用面などで連携し、縄文文化を中心とした市内の遺跡の情報を発信するとともに、札幌の遺跡を学ぶことができる学習メニューの提供を目指していきます。

※40）『札幌市まちづくり戦略ビジョン 戦略編（対象年度：平成 25～35 年度）』平成 25 年 10 月。

# ９　管理・運営計画

## （１）管理・運営体制の基本的な考え方

遺跡公園では、遺跡を適切に保護しながら、市民と協働で遺跡を活用していく方針のもと、市民参加による継続的な調査・研究を推進し、その成果に基づき、札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡を発信していく必要があり、施設の管理・運営には、市民ボランティアや地域の方々との密接な連携と学術的な研究成果に基づいた継続性が求められます。この継続性を維持していくとともに、教育資源や観光資源として遺跡公園を有効に活用していくためには、行政が主体的に関わり、市民と連携した管理・運営体制を構築することが必要となります。

そのために、行政は、継続的な調査・研究を核とし、研修会・学習会や講座・講演会等の開催をとおして、市民ボランティアや地域の方々を恒常的に支援していくとともに、市民から市民へと発展的に活動が継承されていく体制の円滑な組織化をサポートしていきます。

一方で、多様な市民ニーズに、より効果的・効率的に対応するために、民間の自由な発想・能力を活用していくことが求められていることから、施設の管理・運営には、市民サービスの向上を図ることを目指して、指定管理者制度※41 の導入を検討していきます。

なお、指定管理者制度を導入する際には、遺跡公園としての活動理念を理解し、実践することができる専門性が求められます。

また、遺跡公園は、サッポロさとらんどの中にあることから、サッポロさとらんどとの一体的な管理運営など、できる限りコストを抑えた管理運営のあり方についても、検討していきます。

将来的には、行政・市民・指定管理者が連携し、それぞれの能力を最大限発揮することができる施設の管理・運営を目指していきます。

※41）多様化する住民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、「公の施設」（住民の福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設）の管理に、民間の能力を活用する制度。

## （２）管理計画

遺跡を適切に保存するとともに、利用者の利便性・安全性を確保することを目的とした管理を行います。

### １）保存整備ゾーン

●発掘調査ゾーンは、市民参加による継続的な調査を実施する空間として、また、サッポロさとらんどの「風のはらっぱ」等の広場と同じように、市民が憩う広場として、定期的に草刈りを行う等、環境保全に努めます。

●遺跡保全ゾーンは、将来的に遺跡を保全していく必要があることから、遺跡への影響を考慮した上で、植生復元について検討していきます。また、定期的に草刈りを行う等、環境保全に努めます。

### ２）ガイダンス施設・体験施設ゾーン

●ガイダンス施設は、利用者の活動拠点として、日常的な清掃や機器類の点検を徹底し、利用者の安全性・快適性の維持に努めます。

●屋外体験学習ゾーン（体験広場）は、火を使用した体験活動を実施することから、必要箇所に消火器具を設置するとともに、日常的な巡回を徹底し、火災発生の未然の防止に努めます。

### ３）エントランスゾーン

●エントランス広場は、遺跡公園の正面として、日常的な清掃を徹底し、環境の美化に努めます。

●サイン・インフォメーションコーナーは、破損・汚れ等の日常の点検を徹底し、施設イメージの低下を防ぐとともに、適切な情報の更新に努めます。

### ４）バッファゾーン

●バッファゾーンに配置された樹木等の植栽については、利用者の安全性・快適性の観点から、サッポロさとらんどの他の地区と同様の管理を行っていきます。

## （３）運営計画

札幌の縄文文化の魅力を発信していくために、丘珠縄文遺跡を歴史資源、文化資源、教育資源として活用し、市民と協働で将来に継承していきます。また、サッポロさとらんどと一体的に体験できる施設として運営していくことによって、サッポロさとらんどの集客交流機能を高めていきます。

### １）解説

展示室の見学について、利用者のニーズに応じて、解説を行います。解説は、市民ボランティアによるガイドサービスの導入を検討します。

### ２）縄文体験活動

市民ボランティアと協働で、体験内容や手順の検討、体験用具の整備等を行うとともに、利用者を市民ボランティアが主体的に指導できるような体制の導入を検討します。

### ３）調査体験活動

発掘調査、整理作業の見学・体験について、利用者を市民ボランティアが主体的にサポートできるような体制の導入を検討します。

### ４）調査・研究

市民ボランティアが調査・研究に関われる機会を提供し、自主的に取り組める環境を整備していきます。

### ５）情報発信

発掘調査の成果に基づいた遺跡見学会の開催、展示内容の更新、企画展の開催、学習発表会の開催等に、市民ボランティアが主体的に関われる体制の導入を検討します。また、体験活動や各種イベントの広報活動についても、市民ボランティアが参画できる仕組みを検討します。

### ６）集客活動

リーフレットの作成やホームページの開設・更新等による施設の宣伝、チラシ・ポスター等の作成・配布によるイベントの周知、小中学校の校外学習の誘致、観光資源としての施設活用のＰＲ等については、指定管理業務に含めることを検討し、効率的・効果的な集客活動が展開される体制を整備します。

### ７）清掃・点検・植栽管理

ガイダンス施設の日常的な清掃･点検､定期的な屋外の植栽管理については、指定管理業務に含めることを検討し､適切な管理が行われる体制を整備します。

なお、植栽管理については、定期的に地域住民や市民ボランティアの協力を得ながら実施する仕組みも検討していきます。

### （４）防災計画

サッポロさとらんどは、『札幌市避難場所基本計画』（平成 25 年 3 月）において、災害発生時の「広域避難場所」※42 の一つに定められており、また、平成 26 年には大規模な火事に対する「指定緊急避難場所」の一つに指定されています。

また、サッポロさとらんど付近は、『札幌市洪水ハザードマップ』※43 おいて、浸水深 1.0 ～2.0m未満の浸水が想定される地域に指定されており、『札幌市地震防災マップ』※44 において、震度６強の地震の発生が予想される地域に指定されています。

これらのことを踏まえ、遺跡公園については、サッポロさとらんど内にある施設として、サッポロさとらんどの「消防計画」に準じた管理・運営を行っていきます。

※42）大規模火災が発生した場合、炎や煙から身を守り、安全を確保する場所。

※43）150 年に 1 回程度起こる大雨を想定し作られたハザードマップ（平成 16 年 7 月作成、平成 24 年 3 月一部改訂）。

※44）札幌で発生する可能性があり、最大級の被害をもたらす地震を設定して、その地震から想定される被害の全体像を示す防災マップ（平成 21 年 3 月作成、平成 25 年 6 月一部改訂）。